

かがやく

ハーモニーひたちなか

第 24 号

2018.3 発行

編集/発行

ハーモニーひたちなか
ひたちなか市女性生活課

男女共同参画強調月間事業

テーマ 「つくろうよ 自分らしく 生きる社会」

本市では毎年 11 月を男女共同参画強調月間と定め、男女共同参画社会の実現に向けて、市民や事業者の方に関心と理解を深めてもらうために様々な事業を実施しています。

平成 29 年度は「つくろうよ 自分らしく 生きる社会」をテーマに、男女共同参画を推進する市民団体のネットワークであるハーモニーひたちなかと協働で、趣向を凝らした企画を展開しました。



▲ハーモニーフェスタ 2017 会場の様子



▲ハーモニーひたちなかフォーラム講演会の様子

平成 29 年 11 月 4 日 (土) 市総合体育館 サブアリーナで「ハーモニーフェスタ 2017」を開催し、ハーモニーひたちなか構成団体による英語で手遊びや舞踊のステージの他に、紙芝居、紙工作など親子で楽しめるイベントを行いました。また、ハーモニーひたちなかの紹介パネルや構成団体を紹介するパネルを展示し、来場された方に、ハーモニーひたちなかを PR することが出来ました。

11 月 26 日 (日) にはハーモニーひたちなかフォーラムをワークプラザ勝田で開催しました。同フォーラムでは、男女共同参画推進事業所の表彰式や男女共同参画に関するキャッチフレーズ入選者の表彰式を行いました。表彰式終了後には、知的家事プログラム「楽しくラク」を講師に迎え「楽しくラクラク時短家事」をテーマに講演会を行いました。





楽しくラクラク時短家事

～欲しかった！時間のゆとりを手に入れる～

講師: 本間 朝子さん
知的家事プロデューサー

時短家事の三つの法則は、環境整備と家族の参加、そして発想の転換だった。

環境整備とは、動きやすい場所づくりと出し入れしやすい収納のこと。料理で言えばキッチンの通路を確保したり、調理器具や食器などを出し入れしやすく配置する。すると家族にも使いやすい台所が出来上がる。講師は収納が苦手な人には物の数を減らすことを薦めた。

家族参加では、「シェアする」という言葉が新鮮だった。掃除洗濯炊事のように名前がある家事でなくても、備品を点検して足りなければ補充するとか回覧板を回すとか家事と思われていない家事もたくさんある。女性の家事時間は1996年が2時間37分で2011年が2時間32分とほとんど変わらないと講師は示した。ならば家族と

家事をシェアしよう。家事に慣れない家族には、新入社員に教えるように具体的に伝え、やる気を起こさせる言葉がけをして家事をシェアする。使うのが楽しくなる道具を用意するのもいい、と。

発想の転換は、たとえば汚れない工夫、量を減らす、多種類を持たないことで選り分ける時間を減らす、洗濯した服をたたまずハンガーかけて済ませるなど。

家事にかかる時間を減らしたいと参加したら、それは家族みんなで営むものと改めて考えさせられた。

家事にかかる時間を工夫して、家事を家族にシェアしていく。家族の生活力が向上していけば家庭はより居心地のいい場所になるだろうと講師の話を楽しく聞いた。



男女共同参画推進事業所表彰

男女が共に働きやすい職場環境づくりに取組んでいる2事業所が表彰を受けました。(50音順)

<有限会社 川崎加工> 印刷業 (栄町)

女性が幅広い業務を行い、女性社員が活躍しています。また、育児休暇や介護休業を取得しやすい環境を整えており、ワーク・ライフ・バランスの実践支援も行っています。

<丸心産業 株式会社> 工業用ゴム部品製造業 (津田東)

女性が幅広い業務を行い、女性社員が活躍しています。また、会社一斉有給休暇取得日や毎週ノー残業デーを設けるなど、ワーク・ライフ・バランスの実践支援も行っています。



男女共同参画に関する作品表彰

一人ひとりが個性や能力を発揮できる社会をイメージした1,052作品の応募があり、その中から次の6名の方が入賞しました。最優秀作品は次年度の男女共同参画強調月間のテーマとして啓発に使用します。

<最優秀作> 「協力し 男女でつくる すてきな未来」 西野 陽菜さん

<優秀作> 「認め合う 男女の個性 輝く未来」 馬目 陽葵さん

「それぞれの 自分らしくがある社会 つくりだすのは思いと理解」 諸岡 和子さん

<佳作> 「おたがいの 美点や欠点みとめあい

十人十色の社会をつくる」 柴 琴理さん

「一緒に作ろう明るい笑顔 一緒に

進もう未来へと」 駒田 愛花さん

「響かせよう仕事と家庭のハーモニー」 村山 佳菜子さん



♪ ハーモニーフェスタ 2017 開催 ♪



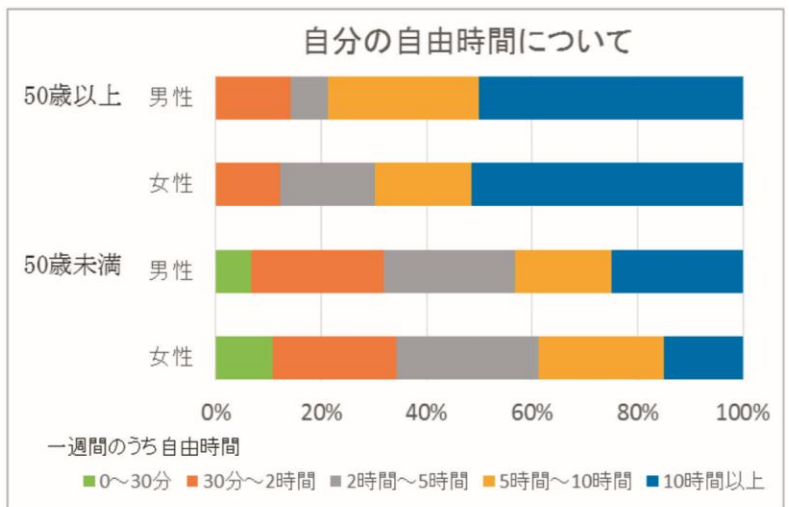
会場では、パパが育児をしたり親子で楽しんでいる写真を展示したハーモニー写真展や男女共同参画に関するアンケートも行いました。
 今年は、ひたちなか市消費生活センターのオリジナルキャラクター「ちゃあくん」が遊びに来てくれたので、子どもたちも大喜びで、フェスタはとても盛り上がりました。



☆ シールアンケート調査結果から ☆

Q1：人前での配偶者の呼び方
 50歳未満では名前呼びが多かったです。個人を大切にする傾向が増えてきたからでしょうか。主人、旦那さんなどの以前からの呼び方も根強く残っています。

Q2：自分の自由時間について
 若い世代では、男女共に30分～5時間あたりが多く、格差は減っているようです。しかし、これが一週間での自由時間だと思えば、10時間以上がもっと増えてもらいたいものです。



男女共同参画推進事業所を訪問！

ハーモニーひたちなか編集委員は株式会社神原鉄工所を訪問しました。社員 28 名中女性が 8 名。今回は、社長、女性常務、女性従業員 2 名にお話を伺いました。

Q 鉄工所という男性の仕事というイメージが強いですが、現場での女性社員の仕事は？

各自が機械 1 台を受け持って、男性と変わらずやっています。

仕事内容は、鉄・ステンレス・アルミ鋼材を使って精密医療機器の商品などを加工しています。コンピューターでプログラムを組んで全工程をやります。

Q 資格の必要性はありますか？

製品検査は資格が必要です。社員の資格取得には会社が対応しています。

Q 社風は？コミュニケーションの取り方は？

とても家庭的です。いろいろなイベントを行い、家族も一緒に参加し親睦を図っています。会社の掃除に関しても、社長も常務も分け隔てなくやっています。「使うものはやります」と社長さん。

編…そういうところから信頼関係が深まるのでしょ
うね。

Q 入社のきっかけは？

ハローワークです。社風に家庭的雰囲気とあったので飛び込みました。2年目です。みんなやさしくて働きやすいです。(Aさん 20代)

Q Aさんの仕事は？

事務の仕事をしています。納期に関してなど、遠慮せずはっきり言い、司令塔となって会社を回しているって感じです。(常務さんとBさん)

編…何でも言える事は、風通しがいいってことですね。

Q ミーティングはされていますか？

部署ごとにやっています。社長は訓示しません。

Q 休みの取り方は？

有給は半日ごとで、当日の朝に電話連絡で休めます。子どもが中学生まではパートで勤務し、休みたい時は休めて、働きやすかったです。(Bさん)

Q 働きやすい工夫は何かしていますか？

各自が自分の力を発揮して自立的にやってくれています。

編…信頼しているってことですね。

Q 女性の職域を広げていきたいということですが？

我が社の製品はマイクロ単位の小さなものだったりします。人の命を預かる医療の現場で、その製品が大切な医療機器の一部だったり、人を運ぶ車両のパーツとなったり、人々の暮らしを支えるものへと変化します。そういう製品なので、細かいところに気が付く女性ならではの力を発揮してもらいたいと思っています。



インタビューを終えて

創業の頃から働いている 70 代の男性社員や、家事・育児を続けながら 30 年以上働いている女性社員の方もいる職場でした。様々な工夫があり、同僚との助け合いがあつてのことだと感じました。一人一人が自分の持てる力を出して、共に地域社会の中で支えあっていくことが、個々の幸福につながるのだと改めて思いました。

編集後記

ある新聞の投稿欄に二人の若い女性のこんな思いが載っていました。

一人は、「街中で若い女性に突然料理をさせ、作れないと、女性なのにと批判しているテレビ番組を見て何かとても違和感を覚えました」という投稿です。

もう一人は、「彼ができてお付き合いが始まり、その時の食事をいつも彼が二人分払ってしまう。これって対等ではない、対等ではないのに」という思いの投稿です。

この二人の投稿を読んで、「男女共同参画社会」は、こんなちよつとしたことにふと疑問を抱くことが出発点では…そんな思いにさせられました。

多くの方がこういうことに戸惑いを感じる事が変わっていく一歩、一歩なのでしょう!!

(H・H)

問合せ先

男女共同参画センター

笹野町 2 丁目 8 番 2 号

TEL・FAX 354-0167